

令和6年度 栃木県中学校新人体育大会剣道大会要項

1 大会日時 令和6年10月18日(金)、19日(土)

8:00 役員・監督入館、準備

8:30～ 選手、応援生徒入館(地区ごと)

9:00～ 保護者入館
監督・審判会議

9:40～ 開会式

10:00～ 試合開始(個人戦)

11:30～ 個人戦表彰式

12:20～ 団体戦開始

16:20～ 閉会式

入館目安	那須、塩谷、宇河	左以外の地区
	8:30	8:40

		個人戦	団体戦
18日 (金)	竹刀検量	8:30～	10:00～
	アップ	9:00～	個人戦終了後30分
19日 (土)	竹刀検量	8:30～10:00	
	アップ	9:00～	個人戦終了後30分

2 会場 栃木県立県北体育館 大田原市美原3丁目2-62

※選手、応援生徒の入館は、1階入口のみを使用してください

※役員、審判、監督、外部指導者は1階入口を使用してください

※保護者の入館は、2階入口のみを使用してください

※片付けについては会場部の指示に従ってください

3 出場校 男子 46校 女子 46校

前回大会優勝校 男子 小山三 中学校 女子 壬 生 中学校

〃準優勝校 男子 壬 生 中学校 女子 陽 南 中学校

〃個人優勝 男子 大山 和寿(小山三) 女子 鷹箸 千尋(壬生)

○各地区別出場校数

団体戦・個人戦の出場数は、下記の出場枠のとおり。また、前回大会のベスト4に入った地区の出場枠を増加させる。

	男子団体	男子個人	女子団体	女子個人
宇 河	9	16	11【1】	20
鹿 沼	3	6	2	4
日 光	2	5	3	6
芳 賀	5	10	3	6
下都賀	12【3】	24【4】	13【2】	24【4】
塩 谷	2	4	2	5
那 須	6【1】	10	6【1】	10
南那須	2	3	2	3
佐 野	3	6	2	6
足 利	2	4	2	4
合 計	46	88	46	88

※【】は前回大会ベスト4の人数

4 協議・確認事項

(1) 大会会場と待機について

- ・個人、団体ともに6試合場で実施する。
- ・サブアリーナは、練習会場として開放する。また、団体戦試合中は選手の待機場所とするため、面を付けてのアップはできない。
- ・個人戦試合中は、団体戦出場選手はアップ以外の時間は観覧席での待機を基本とする。
- ・団体戦はタイムテーブル（別紙）を組んで、その時間を目安に試合を開始する。

(2) 審判長について

菊池聡先生（鹿沼西中学校）に依頼する。

(3) 試合場係員について

宇河、下都賀、芳賀、那須の4地区に競技部から依頼する。

開始式前に、係員の生徒を集めて競技部から説明を行う。（剣道場）

(4) 組み合わせについて

個人戦・団体戦ともに令和6年度県総体大会の結果を生かしてシード枠を決定する。

(5) 観覧・応援について

大会会場のメインアリーナに入れるのは、監督（部活動指導員）、登録選手、外部指導者、審判、生徒係員のみ。ただし、個人戦に1名のみ出場する場合は、練習相手として1名のみ生徒の参加を認める。

応援については、観覧席を団体戦出場校には20席、個人戦出場選手には1人につき3席割り振るので、各校の裁量で生徒や保護者に割り当てる。

(7) 選手について

試合を行う選手は面マスク（不織布でないものが望ましい）またはシールド（口を覆うもの）の着用を必須とする。面マスクは必ず口と鼻を覆うように着用する。

(8) 竹刀検量について

竹刀検量を実施する。場所は剣道場。詳細については競技部より説明。事前に各校で点検を行い、不正竹刀の使用が絶対に無いようにすること。

(9) 新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法に関わる反則について

本大会では、令和6年9月1日より実施となっている「剣道試合・審判・運営要領の手引き」の改訂に従い実施する。（別紙参照）

5 試合規則

(1) 全日本剣道連盟試合審判規則及び細則に準ずる。

(2) 日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項並びに全国中学校剣道大会試合規則、及び本大会代表者会議決定事項による。

(3) 試合方法

① 個人戦 トーナメント戦 ※順位決定戦を実施する

② 団体戦 決勝戦までトーナメント戦 ※順位決定戦を実施する

(4) 試合時間

団体戦 3分 延長なし

順位決定戦 3分 延長なし（勝敗がついた後の試合は行わない）

個人戦 3分 延長2分ずつ区切る（以下の時間については、当日の気象条件により変更の可能性あり）

※休息時は、試合場係が5分間を計時し合図を行う。その際に、いったん試合場から退場させ後方に下がって水分補給をさせる。監督等が選手にアドバイスを行ってはならない。



(試合は3分-2分-2分-深呼吸-2分-2分-水分補給)

※休憩時は、審判員も試合場から退場する。

(5) 団体戦トーナメントにおいて、勝者数、本数ともに同数の場合は、代表者(任意)による3分1本勝負を行う。試合時間は個人戦に準ずる。

(6) 竹刀は3尺7寸以内とする。(長さ 114cm以内、重さ 男子440g 女子400g以上)

(7) 剣道用サポーターとテーピングについては、医療上必要な場合は認める。

審判主任に申し出て、オーダー表にテーピング→ サポーター→ と記入する。

・肘や膝などにつけるサポーターを足に付けたり、ゴムや革及び滑り止めを底に張った物等の使用は禁止する。サポーターのかかるとに補強材(当て布)がついていても、革や合成革でなければ使用可とする。

・足裏が革等の足袋は認めない。

・テーピングについては、目に見える場所に付ける場合は白またはベージュのものとする。カラーのテーピングについては、見えない場所の使用のみ可とする。

・腰につけるコルセットについては、見えないように剣道着の中に着用する。

(8) 1階フロアには、時計やビデオカメラ等を持ち込まない。撮影する場合は観覧席から撮影をする。また、選手に対する残り時間の合図はいかなる方法も認めない。

(9) 面ひもの長さ(結び目より40cm)は事前に十分指導しておく。

結び目の位置が上過ぎて、試合途中で面が外れてしまう場面がたびたび見られる。危険防止の見地からも適切な位置(耳の高さ程度)で結ぶよう各学校での指導を徹底する。

(10) 疑義が生じた場合の監督からの異議の申し立ては、一件の事象に対して一回のみとする。その際は以下の手順で行う。

① 審判主任は、審判主任席で監督からの疑義の内容・申し立てを受ける。

② 審判主任は、監督を監督席に戻し、主審を審判主任席に呼んで疑義の内容を伝える。主審は必要があれば合議をする

③ 審判主任は、主審からの説明を受け、主審を元の位置に戻してから監督を審判主任席に呼び、監督に疑義の回答を伝える。

④ 審判主任は、監督を監督席に戻してから、主審に試合を再開させる。

6 チーム編成

監督(部活動指導員を含む)1名、選手5名、補員2名 計8名

・副顧問がいる場合は一列下がったの同席を認める

・外部指導者は、外部指導者席から観戦する

※外部指導者に関する共通理解事項 ①今大会から、「部活動指導員申請書」「外部指導者申請書」を大会当日の受付に提出し、IDを受け取って入場する。

②試合中の指導、指示、異議申し立てはできない。

③監督・審判会議への出席は認めない。

④声を出しての応援や指示はしない。拍手のみを徹底する

団体戦において、1チーム5人未満で出場する場合は下記の通りとする。

・3人で参加 次鋒と副将を欠員とする。 ・4人で参加 次鋒を欠員とする。

7 参加申込

地区大会終了後速やかにwebでの申し込みを行う(締め切り10/4(金)16:30厳守)。

この申込みが正式なものとして受理する。

なお、公印の押印してある参加申込書、オーダー表は代表者会議に受付に提出する。

8 試合順序

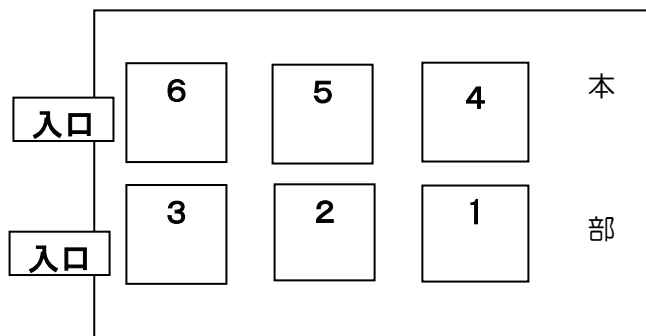
第1日目 (1) 女子個人 (2) 男子団体

第2日目 (1) 男子個人 (2) 女子団体

- ・朝の練習は、メインアリーナで個人戦選手のみ行う。
- ・個人戦時、サブアリーナは練習場所として開放する。
- ・個人戦の表彰終了後、団体戦出場選手の練習時間を30分程度とる。

9 大会会場について

- ・団体戦、個人戦ともに 6試合場
- ・コートは10m四方で作成する。
- ・座席割は別計画による。



10 鏑迫り合いについて

「つば（鏑）競り合い、（以下「鏑迫り合い」とする）は、鏑と鏑とが競り合ってお互いが最も接近して緊迫した状態である。鏑迫り合いは攻防や打突行動の中から発生した相対関係である。

鏑迫り合いになった場合は、試合者は積極的に技を出すか、積極的に解消するように努めなければならないのである。しかし、鏑迫り合いが長く（一呼吸：3秒程度以上）続くようであれば、基本的に次の観点から総合的に是非を判断する。

- ① 正しい鏑迫り合いをしているか。
- ② 打突の意志が有るか。
- ③ 分かれる意思が有るか。

【剣道試合・審判・運営要領の手引き】

(1) 上記の通りとする。

(2) 「鏑迫り合いの解消」は、お互いに一旦間合いを完全に切ることとする。

(3) 鏑迫り合いになってしまった場合の対処。（「分かれ」が多用されないように）

⇒やむを得ず鏑迫り合いとなった場合はただちに分かれるか引き技を出す。

(4) 反則となる行為（本大会は一度で反則とする）

⇒・一方が分かれようとするところについていく、追いかける行為は、反則となる。

・「鏑迫り合いの解消」途中で、完全に間合いが切れていないところで前に出る、技を出す行為は、反則となる。「合議」⇒「反則」（公正を害する行為）

・鏑迫り合いに入った後、一呼吸（およそ3秒）で分かれるか引き技を出さない場合、選手同士で解消する意思がみられないと判断した時は選手双方または片方の反則となる。

「合議」⇒「反則」（公正を害する行為）

・意図的な時間の空費、勝負の回避による相手に接近する行為は反則となる。「合議」⇒「反則」（時間空費）

11 体育館の使用について

(1) 応援生徒・保護者の入場は会場部の提案通りとする。

(2) 選手の靴は各自（各中学校ごと）のビニール袋に入れて保管する。（下駄箱には置かない）

- (3) 選手の更衣は観覧席で行い、荷物はチームごとにまとめておく。更衣室使用可。ただし、荷物は置いておかないこと。
- (4) 貴重品の管理は、各学校で責任をもって行うこと。
- (5) 飲食は観覧席または屋外で行う。また、ゴミはすべて持ち帰ること。
- (6) 館外での練習は必ず下足を履いて行うこと。
- (7) 屋内ではシートは敷かない。
- (8) 役員、監督、登録選手、外部指導者、試合場係員以外はフロアに入らない。
- (9) トイレの使用に注意すること。
- (10) 諸施設のいたずら（特にカーテンや電気等のスイッチ）については、各学校で事前に指導注意しておくこと。
- (11) 問題行動を未然に防止するために、引率の教員で地区ごとに巡回担当を割り振る。朝の審判監督会議後に地区部長会長が担当する。
- (12) 試合の様子等を SNS 等に掲載することがないように各校で指導を徹底する。

1.2 役割分担

令和6年度 栃木県中学校体育連盟剣道専門部組織表による。

1.3 表彰式

個人戦、団体戦それぞれの終了後に本部で実施する。

1.4 申し合わせ事項・連絡事項

- (1) 審判・監督（部活動指導員）の服装は、全日本剣道連盟規定の服装とする。外部指導者も同様が望ましい。
※白の長袖 Y シャツ（ボタンダウンでないもの）・エンジ色のネクタイ、グレーのスラックス・紺色の靴下を着用する。審判旗、紺色のブレザーを持参する。
- (2) 応援は拍手のみとする。守らない学校の監督には、各試合場の審判主任が注意する。
- (3) 監督のアドバイスは、試合終了後、別の場所で行う。また、試合中は正座が望ましい。
- (4) 観客席は学校ごとに割り振るので終日同じ場所を使用する。荷物は座席の下に置く。
- (5) 館内でのフラッシュ撮影や照明の使用を禁止する。
- (6) 外部指導者を登録している場合、外部指導者席に座ることを各校徹底する。
- (7) 会場 1 階の試合場のフロアには、受付より ID を交付された者のみそれを着用しての入場を認める。
- (8) 竹刀の柄は、滑り止めの付いているものは禁止。また、折り返しの部分が異常に大きいものは禁止とする。
- (9) 面の乳革は黒か紺で華美でないものとする。
- (10) 整列前に試合場付近で大きな声を出さない。
- (11) 蹲踞を正しくさせる。（正しくできない場合は指導してやり直しをさせる）
 - ・構えるとき…3歩目を出しながら竹刀を抜き蹲踞する。
 - ・納めるとき…蹲踞し、納刀して右手を腿の上に置いてから立ち上がる。
- (11) 隻腕の生徒は事前に申し出る。
- (12) 選手交代及び代表者戦出場選手については、監督が審判主任に申し伝える。
- (13) 団体戦はタイムテーブルの時間で開始をする。
整列時は「行くぞ」「礼」「整列」などの号令をかけずに整然と整列する。

(14) つばの色については皮色または白色とする。それ以外の物を使用している場合は取り替えさせる。

15 その他

(1) 日本中体連剣道競技部申し合わせ事項について

- 中体連剣道専門部ホームページ上の資料を参照のこと